

瀬名姫（築山御前）、信康を殺害した五人は、その後、奇怪（常識では考えられない不思議なこと）な運命をたどることになります。家康より、殺害命令を受けた野中重政、岡本時仲、石川義房は、天正7年（1579）8月29日浜松の佐鳴湖にて「殿の命により、お命頂戴」と言って野中が築山御前を殺害しました。享年38

さい
歳



最近では、野中の腰の刀を見て「その刀は私を切るためですね」御前是用意した白絹の、うち掛けに着替え自害（自分で自分の体を傷つけて死ぬこと）した説もあります。御前を直接、手にかけて野中重政は浜松を去った。その後、水戸の山野辺氏に仕え、野中三五郎を襲名し現在も水戸に残っています。この野中家では、代々女子が狂人になるということもあって西来院への築山御前の供養を続けたという、その墓前には野中家より寄進（寺社にそなえる）された石燈籠や手洗い鉢が、いまでも見ることが出来ます。



西来院



築山御前の首塚

一方、信康の方には、服部半蔵、天方通網の2名を派遣した。半蔵に、かたみの品をたくし、介錯を命じて、

ねんぶつ せつぷく はんぞう くび き でき みちつな
 念仏をとえ切腹した。しかし半蔵は、あわれで首を切ることが出来ません、通綱が、かわって切りました。
 おかもとときなか いしかわよしふさ ひげき きびょう ごたい てあし ゆび おし
 岡本時仲と石川義房の方は悲劇であった、二人とも奇病にかかり、五体がただれ、手足の指も落ち、死んでしま
 ったという、このことは本人だけにとどまらず、子孫にまで及んだ。

いしかわよしふさ つみ おか しざい たけだ かた ないつう ころ いしかわ け た
石川義房は⇒二人の子は一人は罪を犯して死罪。もう一人も武田方に内通し殺され、**石川家は、絶えてしまった。**
 おかもとときなか よりき むすこ だいはいち じけん おこ しょけい むすめ きょうじん し おかもと け た
岡本時仲は⇒与力の息子、大八は、事件を起こして処刑 され、二人の娘がいたが狂人となり死に、**岡本家も絶**
えててしまった。 信康を自決させた**服部半蔵**は、**西念**と名のり僧になり、諸国を廻った。江戸の四谷に**西念寺**を
 た のぶやす はか くよう はんぞう そう いっしやう おく ご いえやす つか たたか
 建て**信康の墓**も立てて供養した、半蔵は僧として一生を送ったわけではない、その後も家康に仕えてえて戦っ
 ていることをみると一時的なものであったようだ。しかし半蔵の子は、辻斬りの罪に問われ処刑された…

服部半蔵



西念



西念寺



あまがた みちつな ほっしん しゅつけ こうやさん はい ご えちご うつ くら つく しごと ぶし
天方通綱は、発心（出家）して高野山へ入り、その後、越後に移り鞍やあぶみを作る仕事して**武士をやめた。**

つきやま ごぜん はんざいしゃ はか つく いし じぞう お ご さいらいいん つきやま ごぜん ぼせき つく
築山御前は、犯罪者で、墓は作られず、石地蔵を置かれたただけだった、その後、**西来院**に築山御前の墓石が作ら

あいち けんおかざき し ゆうでん じ じゆんし じじよ まつ い つきやま ごぜん くびつか あいち
 た。愛知県岡崎市の**祐傳寺**には殉死した侍女とともに葬られたと言われる「**築山御前の首塚**」があります。愛知

けんおかざき し やはしら じんじゃ けいだい すみ つきやま ごぜん くびつか
 県岡崎市の**八柱神社**の境内の隅にも「**築山御前の首塚**」があります。

西来院



祐傳寺



八柱神社



太刀洗の池



せな き かたな あら い たち あら いけ ち みず にご おそ
 瀬名を斬った刀を洗ったと言われる「**太刀洗の池**」は、いつまでたっても血で水が濁ったままでした「**恐ろし**

いことだ」「御前様の恨みがこもっている」そこで人達が供養したところたちまち、もとのように、きれいに澄ん

だすんだ水になったと言います。この池を「**太刀洗の池**」とよび佐鳴湖のほとりになごりをとどめています。